

平成22年度国際交流事業について

○第15回日ロ知事会議（開催済み）

開催地：ロシア連邦モスクワ市

開催日：5月2日（日）

摘要：第15回日ロ知事会議

○第5回日韓知事会議

開催地：福岡県福岡市

開催日：9月14日（火）予定

摘要：第5回日韓知事会議

○第8次日中知事交流・フォーラム

開催地：都道府県会館

開催日：10月28日（木）

摘要：知事と省長による交流・フォーラム

第15回日口知事会議訪口代表団概要報告

平成22年7月16日

全国知事会

第15回日口知事会議訪口代表团

■ 日口知事会議全国知事会訪口団日程

2010年5月1日(土)モスクワ市へ向けて出発

2日(日)第15回日口知事会議

3日(月)モスクワ大学訪問

4日(火)政府要人面談、ウラジオストク市へ向けて出発

5日(水)ダリキン知事との意見交換及び懇談会

ウラジオストク総領事主催沿海地方政府及び関係者との懇談会

6日(木)極東工科大学訪問、帰国

■ 代表团メンバー

団 長	全国知事会会長	麻生	渡
団 員	北海道知事	高橋	はるみ
	秋田県知事	佐竹	敬久
	山形県知事	吉村	美栄子
	新潟県知事	泉田	裕彦
	富山県知事	石井	隆一
	鳥取県知事	平井	伸治
	東京都副知事	村山	寛司
事務局	全国知事会事務総長	中川	浩明

1 日口知事会議開催の経緯

昭和43年、ソビエト連邦を訪れた知事が中心となり、「全国知事会有志知事」としてソビエト連邦を訪れることを協議。その結果、昭和43年7月29日有志知事を代表して、田部島根県知事および安孫子山形県知事の名でソビエト連邦知事4名、随員3名を2週間招聘することになった。

その後、田部知事が訪ソした際に同招待状をチョルヌイ・ハバロフスク地方知事に手交。同氏の承諾を得て、日ソ知事定期交流の緒が開かれた。

同年12月には、チョルヌイ氏を団長とする一行6名のソ連知事団が来日し、25日に「日ソ沿岸貿易の促進」・「ソ連の地方・州と日本の府県との友好親善の発展」を議題として、第1回日ソ知事会議が開催された。

知事会議はソビエト連邦が崩壊しロシア連邦となった後も開催されていたが、平成9年にモスクワで第14回日口知事会議が開催された後、ロシア側の都合により休止となっていた。

ロシアからの申し入れにより、昨年5月プーチン首相訪日に同行したルシコフ・モスクワ市長他地方政府代表と知事による日口知事意見交換会が開催され、この会議で日口間の地域間交流について話し合うため日口知事会議の再開を共同声明として取りまとめ、このたび第15回日口知事会議がモスクワ市において開催された。

2 第15回日口知事会議の概要

知事会議では日口間の地域間交流をテーマに、それぞれの地方政府の取組や、両国間の経済交流を積極的に展開していくための招聘・渡航手続き、通関手続き、航路、航空路の整備等に関し、問題点や今後の連携について意見が交わされ、共同声明において問題の解決のた

めに両国政府へ要請していくことと、2011年に日口知事会議を日本で開催することを取り決めた。

3 政府要人との面談

(1) 地方発展省トラヴニコフ次官

- ・日口間の貿易・経済関係の進化に向けた具体的な両国の動き
- ・ロシア政府の極東・シベリア開発計画

(2) 中小企業発展政府委員会副議長「ロシアの柱」ポリソフ会長

- ・ロシア国内の中小企業問題と対策
- ・日本の中小企業のロシア進出

(3) 外務省ボロダフキン次官

- ・日口両国の戦略的パートナーシップを築くために重要な地域間交流に対するロシア政府の対応

4 モスクワ市での友好交流について

モスクワ大学を訪問し、学生による音楽やダンスの盛大な歓迎の公演によりもてなされ、モスクワ大学向かいの「雀が丘」には、日口の地方政府間の友好交流の証として、記念の桜を植樹した。

この桜は、モスクワ市と姉妹都市提携を結んでいる東京都から、友好の証として提供されたもので、寒さの厳しいモスクワで育つように「千島桜」が選ばれた。

5 地方視察－沿海地方ウラジオストク市

今回は、2012年にAPEC開催が決まり、開発計画が進んでいるウラジオストク市を地方視察先として訪問した。

ウラジオストク市は極東地方の窓口として、航空路・航路ともに日本と関係の深い都市であり、極東開発の中心地でもある。2012年APEC開催に向けて街の至る所でインフラ整備が進んでおり、到着した当日はAPEC会場となる島を結ぶ架橋現場を洋上から視察した。

なお、現地ではダリキン知事と、極東・シベリア開発計画の資源エネルギー関連のプロジェクトや日本企業の進出や技術協力、今後の新しい関係のための定期航空路・航路の開発などについて意見が交わされた。

また、ウラジオストク総領事館のご尽力により、沿海地方政府、ウラジオストク市、ナホトカ市、地元産業界の方々と意見交換会が行われた。

6 ウラジオストク市での友好交流について

極東工科大学を訪問し、現在行われている研究の具体的なテーマや進捗状況などについて、学長をはじめ教授陣と意見を交わした後、日本語学科の授業を視察し、教室において学生と懇談を行った。

第15回日露知事会議共同声明

2010年5月2日、第15回日露知事会議がモスクワにおいて開催された。
この会議には、日本側から以下8名が出席した。

麻生 渡	日本国全国知事会会長、福岡県知事
高橋 はるみ	北海道知事
佐竹 敬久	秋田県知事
吉村 美栄子	山形県知事
泉田 裕彦	新潟県知事
村山 寛司	東京都副知事
石井 隆一	富山県知事
平井 伸治	鳥取県知事

ロシア側からは以下10名が出席した。

ユーリ・ルシコフ	ロシア21世紀委員会議長、モスクワ市長
ヴィクトル・クレス	トムスク州知事
オレグ・コロリョフ	リペツク州知事
セルゲイ・ヴァフルコフ	ヤロスラヴリ州知事
アナトリー・アルタモノフ	カルーガ州知事
ヴァチェスラフ・シュポルト	ハバロフスク地方知事
イーゴリ・スリュニャエフ	コストロマ州知事
アレクサンドル・ホロシャヴィン	サハリン州知事
アレクセイ・クジミツキー	カムチャツカ地方知事
ゲオルギー・ボース	カリーニングラード州知事

両国においては、友好親善関係の増進と経済・貿易関係の発展をめざし、過去1968年から1997年まで14回にわたり日露知事会議を開催してきた。

その後、2009年5月12日の日露知事意見交換会において、今後、両国地方政府代表者による多面的な協力体制や日本・ロシアの相互理解と協調関係を築いていくためには、継続した対話を重ねることが最も重要であることを確認し合い、休止状態にあった日露知事会議の再開を決定したものである。

これにより、本日、モスクワ市において日本の都道府県知事とロシア連邦構成主体の地方政府代表者が一堂に会し、友好親善の発展はもとより、両国間の経済交流をはじめ、環境、エネルギー、観光、科学技術等の地域間交流の実態と望ましい交流のあり方、活性化方策について率直に意見交換を行った。

この会議の開催に当たっては、日本側から河野駐ロシア特命全権大使が、ロシア側からフリステンコ産業貿易大臣が出席し、それぞれ鳩山内閣総理大臣、メドヴェージェフ大統領のメッセージを読み上げた。

会議において、日本側参加者は、本格化するロシア極東・シベリア地域の開発に合わせ日露間の経済交流の活性化と拡大を図るため、両国での招聘・渡航手続の簡素化、通関手続の簡素化・迅速化、定期航空路線・定期貨客船等の利用促進、中小企業の進出支援などの取り組みが重要であることを提案した。

また日露経済交流をロシア西部にも進めるため、日露間の定期貨客船とシベリア鉄道を結ぶ物流ルートを確立した上で同鉄道の定時性・迅速性の向上を図ること、さらには経済発展に伴う環境問題への対処と地球環境問題の解決に向けた地域間の技術交流の促進が重要であることを提案した。

ロシア側参加者からは、緊急度の高い具体的な課題の解決を図るため、日本の都道府県知事とロシア連邦構成主体の代表者との間にホットラインを設置することについて提案があった。

また、ハイテク・省エネルギーに関する技術交流、ロシア極東・シベリア地域における燃料エネルギー複合施設の開発と住宅の建設、農作物・漁業資源の加工、観光・交通インフラの開発、日露地域間の交流範囲の拡大、観光発展のためのカムチャツカ地方と日本の都道府県との間の定期航空路線と定期貨客船の開設、大学間交流の一層の推進等の分野における協力について提案があった。

これら両国地方政府代表者の提案は極めて有益なものであり、両国地方政府はその実現に向けて努力し、それぞれ中央政府に対し要請していくことを合意した。

日露双方の参加者は、平和条約の問題に関し相互で受け入れ可能な解決を目的とした対話の継続についての日露首脳の方針を支持した。

会議の内容について、我々は大変満足できるものであったと評価する。

2012年にはウラジオストクで APEC 首脳会議が開催される予定である。ロシア極東・シベリア地域の発展は、今後、両国の発展にとって、大きな影響を及ぼすものであり、APEC 首脳会議の成功と大きな成果を期待している。

最後に、次回の日露知事会議を 2011 年に日本において開催することを決定した。

2010年5月2日

日本側代表团団長
全国知事会会長
福岡県知事
麻生 渡

ロシア側代表团団長
ロシア 21 世紀委員会議長
モスクワ市長
ユーリ・ルシコフ